

下から東美源内が出た。之を和義と名づけることも亦十藏から初つたとある。和義はヤハラ即ち柔術のことで、こゝに慶藏院とあるのは泉州堺住人慶藏院である。

**ワキザカシチベ** 脇坂七兵衛 藩末の士であるが、御昵近ではなかつた。七兵衛奇行多く、明治三年舊官名類似の人名を禁せられた時、七兵衛と改めたが、それは方言で聲を意味するものであつた。又九年廢刀令實施の後には、挿木を帶し、大荒目の綱を羽織とし、種の布帛を纏合はせた袴を穿つて澗歩した。

**ワキダカデンシヨ** 脇田家傳書 一冊。加賀藩の士脇田九兵衛直賢入道如鐵が、文祿元年征韓の役に宇喜多秀家の陣に伴はれて本邦に來た後の閱歷を、萬治三年正月自記して子孫に遺したものである。

**ワキダコウイチ** 脇田巧一 加賀藩の士脇田九兵衛の四子、嘉永三年を以て生まる。家世々三百石を受けた。明治六・七年の交巧一變則中學の監生となり、生徒松田克之と共に民選議院設立を縣廳に建言したが、その顧みる所とならなかつたを怒り退學した。八年長連寮の鹿兒島から歸つた時、巧一之を訪うてその談を聞き、深く西郷隆盛・桐野利秋の人と爲りを慕ひ、十年隆盛等の學兵失敗するに及び、遂に島田一良と謀つて、十一年二月東上し、五月十四日參議大久保利通を紀尾井町に暗殺し、七月廿七日斬刑に處せられた。時に年廿九。

**ワキダシゲカツ** 脇田重勝 通稱善左衛門。兵部重季の三男。元和三年父退隱の後その祿六百石を受け、大小將番頭・足輕頭に任せられ、延寶二年歿した。

**ワキダシゲスエ** 脇田重季 通稱帶刀・兵部。初め朝倉義景の臣であつたが、越前府中へ前田利家に仕へ、六百石を受け、大坂の役には黒母衣の使番を勤め、後役には町口で槍功があり、祿千五百石に至つた。元和三年致仕し、寛永元年五月廿五日歿、歳八十。子孫世々藩に仕へる。

**ワキダシゲトシ** 脇田重俊 通稱帶刀。初め前田利治の傅となり、寛永十六年利治の大聖寺に分封するに従うて二千石を祿せられた。弟半平後を襲ぎ、二千石を受け、萬治元年歿。子なく、甥後藤權之助を養ひ、權之助も帶刀と改名して千五百石を受けたが、遂に遁世して宥甫と號し、京に住した。

**ワキダジヨテツオホエガキ** 脇田如鐵書 前田利家の臣村井豊後守・奥村伊豫守以下五十四人の軍功に就いて書いたもので、卷末に『右御家にて手に逢申者承及候分、存出し次第書付申候。いづれも覺ちがへ可有御座候云々。』とある。脇田如鐵は直賢である。

**ワキダナホカタ** 脇田直賢 通稱九兵衛。もと朝鮮の人。父は翰林學士金時省。文祿元年の役に、七歳にして宇喜多秀家の軍に伴はれて岡山に來り、秀家の室によりて翌年金澤に送られ、芳春院夫人に養はれた。次いで前田利長の近侍となり、脇田重俊の女を娶つてその氏を冒し、利長退老の後之に従うて百石を賜はり、又百三十石を加へたが、後に讒を得て一時屏居し、次いで大坂兩役に出陣して功を立て、二百石を加賜せられ、寛永中五百七十石を加へて計千石となり、使番に任じ、先筒頭を兼ね、御算用場奉行となつた。光高の襲封より四年、亦大小將頭に進み、綱紀の

嗣封後公事場奉行を兼ね、次いで町奉行に轉じ、萬治二年退老して名を如鐵と改め、養老俵三百石を賜はり、翌三年七月七十五歳を以て歿。直賢幼より文を好み、殊に連歌を好くした。子孫世々藩に仕へる。

**ワキダナホナガ** 脇田直長 父は直能。七兵衛と稱し、延寶三年父の遺知千五百石を襲ぎ、歩頭・馬廻組頭兼公事場奉行を勤め、定番頭に至り、享保九年致仕して夕庵と稱し、十七年八月廿八日八十五歳を以て歿した。

**ワキダナホノブ** 脇田直暢 通稱三左衛門。伊織。祿三百石で大小將に班したが、天明元年組外に轉じ、遠慮を命ぜられ、五年八月御免、十月八日出奔して家繼絶した。

**ワキダナホハル** 脇田直温 通稱留之助。哲兀郎。明和九年父治左衛門直廉の遺知千五百石を襲いで御馬廻に班し、天明二年前田重敏の御近習となり、三年八月閉門を命ぜられ、四年三月免されて千石を減じ、五年十一月二百石を増し大小將に任じ、寛政二年八月不行狀の故を以て二百石を減じ、逼塞を命ぜられて組外に列し、六年六月御免、十二年彌波射水郡奉行となり、享和元年職を免じ、文化十一年御馬廻に轉じ、文政五年歿した。

**ワキダナホヨシ** 脇田直能 通稱平之丞。九兵衛。直賢の嫡男。寛永中前田利常に仕へて三百石を受け、萬治二年父の退老の後千五百石を襲ぎ、町奉行を経て馬廻頭に進み、用人を兼ねた。直能學を好んで木下順庵に従遊し、又連歌を能くし、若式を千宗室に學び、その亭を瀧雪と號した。延寶三年歿。

**ワキダヤチ** 脇田谷内 珠洲郡出田の内の小字。

**ワキバゴンエモン** 脇葉權右衛門 寛永二十年父權右衛門の遺知四百石を繼ぎ、正保二年大小將となつた。然るにその養子傳右衛門が、延寶元年十二月城尾屋惣右衛門の徒として逐電したを以て、二年正月權右衛門は逼塞を命ぜられ、五月水野八郎兵衛に御預となり、三年二月知行を召放し、能登島に流されて天和三年に歿した。傳右衛門は延寶三年江戸にて召捕へられ、六月廿七日刎首に處せられた。

**ワキバラ** 脇原 河北郡東脇原の内の小字。  
**ワキミツスケ** 和木光弼 通稱才安、諱は光弼、字は道輔、號は敬軒。金澤の人。洛に赴いて醫を習ひ、傍ら程朱の學に志して諸生に教授した。寶曆十年九月廿三日易竇する時年四十二。

**ワキモトカクヘイ** 脇本覺平 初めて前田利家に仕へて三百俵を領した。その子も亦覺平といひ、百三十石を受け、子孫藩に世襲する。  
**ワクナミ** 涌波 河北郡井上庄に屬する部落。

**ワクナミシン** 涌波新 石川郡石浦庄に屬する部落。延寶三年までは涌波と稱へてゐた。元祿十一年正月涌波新村百姓四郎兵衛書上に、寛永の頃下小立野を新開高とすべき希望者を募つた時、加賀郡涌波村の百姓四人が來て田地を開いたとある。こゝに下小立野といふのは涌波新のことである。又元文五年の十村書上には、辰巳水道開鑿の後その餘水を以て拓いた田地であると記される。

**ワクラ** 和倉 鹿島郡奥原保に屬する部落。承久三年注進の能登國田數目録の中鹿島郡に